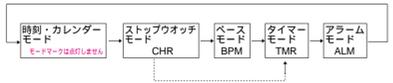


■製品の説明

例：時刻・カレンダーモード



ボタン A を押すごとに、つぎの順序で切り換わります。



ストップウォッチがリセットされていない場合は、ストップウォッチモードよりベースモードを抜けてタイマーモードへ切り換わります。
操作確認音がセットされていますと、モードを切り換えることに「ビップ」となります。
(操作確認音については、「アラームの使いかた」を参照してください。)

■時刻・カレンダーの合わせかた

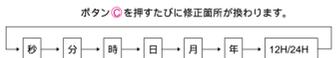
ボタンの名称とはらき



ボタン A を押して「時刻・カレンダーモード」状態にしてください。

ボタン B を2~3秒間押し続けると、「秒」が点滅し「時刻・カレンダー合わせ」状態になります。

ボタン C を1回押すごとに次の順序で合わせたいところ（点滅部）を選ぶことができます。
年月日をセットすると「曜日」は自動的に設定されます。



ボタン C を押して「秒」を点滅状態にし、時報と同時にボタン D を押すと「00」に合います。

秒表示が30~59秒のとき、ボタン D を押すと1分繰り上げて「00」に合います。
時刻合わせは電話の時報サービス (TEL.117) が便利です。

合わせたいところを点滅させたあとボタン D を1回押すごとに点滅している数字が1つずつ進みます。

ボタン D を押し続けると、早送りできます。

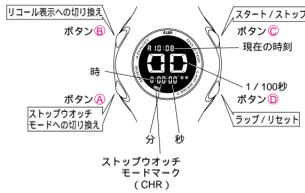
「時刻・カレンダー合わせ」が終了したら、ボタン B を1回押して「時刻・カレンダーモード」にもどしてください。押し忘れた場合でも2~3分後には「時刻・カレンダー表示」へ自動的にもどります。
カレンダーは1994年から2043年までの年・月・日・曜がプログラムされていますので、この期間の大小や、うるう年でも修正する必要はありません。
報時機能については、「アラームの使いかた」を参照してください。

時刻修正の途中で「全点灯表示」になることがありますが、故障ではありません。ボタン C とボタン D が同時に押された状態です。その場合は、A B C D いずれか1つのボタンを押して、「時刻・カレンダーモード」にもどってください。つぎにあらためて、上記の から合わせしてください。

■ストップウォッチの使いかた

・1/100秒単位、10時間計測です。
・最大計測時間は、9時間59分59秒99です。
・ストップウォッチの呼び出し/解除は、ボタン B を押して「ストップウォッチモード」にしてください。

通常の使いかた



ボタン A を押して「ストップウォッチモード」にしてください。

例：100メートル競争 (ボタンを押す順序: C C D)



時間計測を積算でおこなう場合

例：バスケットボール (ボタンを押す順序: C C C... C D)



ラップ計測をおこなう場合

計測中ラップ回数は、「99」まで表示し「1」-「8」区間のラップタイムを自動的にメモリー (記憶) しています。

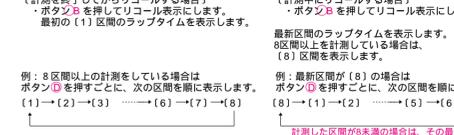


例：10,000メートル競争 (ボタンを押す順序: C D D... D D C D)
ボタン D を押した後、約10秒間放置しますと自動的にストップウォッチ計測表示にもどります。
ストップボタンを押した後約10秒後に 上段: 現在時刻 下段: トータル時間 になります。
途中のラップは、何回でもくり返すことができます。
ラップ回数は、99回まで表示します。
以降は100 (表示: 00)、101 (表示: 01) と順次表示します。
「ラップ」を1回以上取った後の「ストップ」は、「ラップ」として数えます。

計測中に他の表示 (モード) に切り換えても正常に作動していますが、計測していない場合は電池寿命が短くなりますので作動を停止させてください。

リコール (呼び出し) の使いかた

・計測途中、リセット状態のどちらでもメモリーの呼び出しはできます。
・計測後リセットしても新しく計測しない限り、メモリーは削除されません。
このストップウォッチは、最初の (1) - (8) 区間までのラップタイムを自動的にメモリー (記憶) しています。メモリーしているラップタイムのリコール (呼び出し) は、次の順序でおこないます。



例：リコール (呼び出し) 状態 (計測終了後)



■ベース計測機能の使いかた

・最小計測単位は、1/100秒です。
・最大計測時間は、9秒99です。
・ベース回数の換算範囲は、18~240回/分です。
・3回分の動作にかかった時間を計測し、1分あたりの回数に換算する機能です。参考値としてご使用ください。
ストップウォッチとの併用はできません。

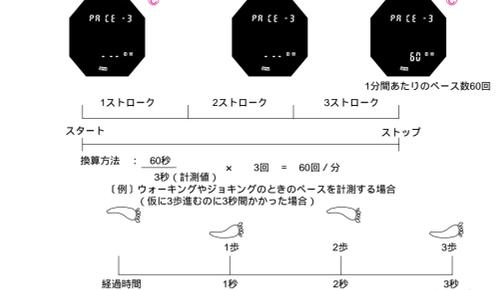
ボタンの名称とはらき



ベース計: 3回分の動作時間を計測することにより1分あたりの回数 (ビップ数) に換算し、表示する機能。ポード競技等で用いられる。

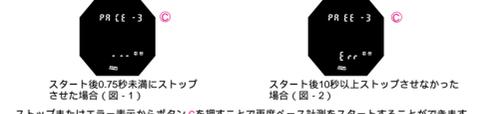
ボタン A を押して「ベースモード」にしてください。

スタートさせて3ストローク (3周期) でストップすると、1分間あたりのペース (ストローク) 数が換算されて表示されます。



測定できるペース範囲は、18~240 (ストローク/分) です。

このため、ボタン C を押してスタートさせてから0.75秒未満でボタン C を押してストップさせると表示は、下図-1のように表示になります。
また、ボタン C を押してスタートさせてから10秒以上経過してもボタン C を押さないと、自動的に下図-2のようにエラー表示 (Err) になります。



ストップまたはエラー表示からボタン C を押すごとに再度ペース計測をスタートすることができます。

■タイマーの使いかた

・タイマーは、3分、5分、10分、15分、20分、30分、35分、40分、45分の9つの初期値がセットされたプリセットタイマーと、1分から9時間59分までの1分単位で設定可能なフリータイマーがあります。
タイマーは、リピート (繰り返し) 機能のためストップさせないと繰り返し動作しますので、思いわつたら必ず止めてください。

ボタンの名称とはらき



ボタン A を押して「タイマーモード」にしてください。

フリータイマーの合わせかた

・9つのプリセットタイマーのどこからでもフリータイマーの「呼び出し」ができます。
・フリータイマーは、1分から9時間59分までの1分単位で合わせることができます。



合わせたいところを点滅させたらボタン C を1回押すごとに進んでいる数字が1つずつ進みます。



プリセットタイマーの使いかた

ボタン D を押すごとに次のようにタイマー時間が変わります。



途中のストップ・再スタートは、何回でも繰り返すことができます。

タイムアップすると5秒間タイムアップ音が鳴ります。

鳴っているタイムアップ音を止めたいときは、A、B、C、D いずれか1つのボタンを押してください。

タイマーリセット回数は、99回まで表示します。以降は100 (表示: 00)、101 (表示: 01) と順次表示します。

■アラームの使いかた

・デイリーアラーム付きです。
・アラームのセット (on) / 解除 (-) 切り換えができます。
・アラーム設定時刻になるとアラーム音で報知します。

ボタンの名称とはらき



アラームモードマーク (ALM)

アラーム設定時刻 (例: 午前12時00分)

デイリーアラーム: 毎日、1日1回設定時刻にアラームが鳴る機能 (24時間制)

ボタン A を押して「アラームモード」にしてください。

ボタン B を2~3秒間押し続けると on または、-表示が入る。「時」が点滅表示し「アラーム時刻合わせ状態」になります。

ボタン C を押しますと、押すたびに「時」と「分」が交互に点滅表示し「アラーム時刻合わせ状態」を選択してください。

合わせたいところを点滅させたら、ボタン C を1回押すごとに高減している数字が1つずつ進みます。

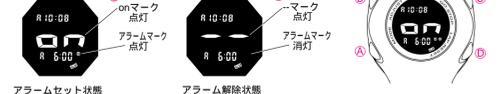


ボタン D を押し続けると、早送りできます。
12時間制の場合は、A/P (午前/午後) に注意して合せてください。
アラーム表示の12H/24Hは、「時刻・カレンダーモード」の12H/24Hに連動しています。

アラームを鳴らしたい場合、鳴らしたくない場合、

「アラームモード」でボタン C を押すことで、セット (on) と解除 (-) ができます。

鳴っているアラームを止めるには、アラームはセットした時刻になると、20秒間鳴り続けます。鳴っているアラームを止めたい時は、ボタン A B C D いずれか1つのボタンを押してください。



アラーム音の試し聴き (サウンドデモンストレーション) と報時並びに操作確認音のセットと解除をする場合。

「時刻・カレンダーモード」でボタン C を押すことで、報時・操作確認音のセットと解除ができます。また、ボタン C を同時に押し続けると「アラーム音の試し聴き」ができます。
報時マークを「点灯」した状態では毎正時報時と操作確認音が鳴り、「消灯」した状態では報時と操作確認音は鳴りません。

